

全国学力・学習調査

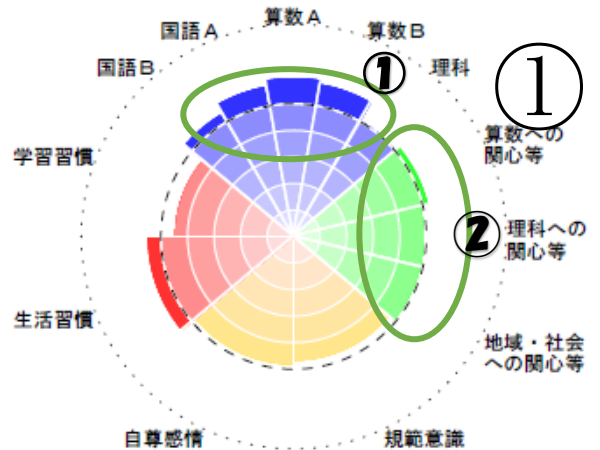
結果報告

昨年度

今年度

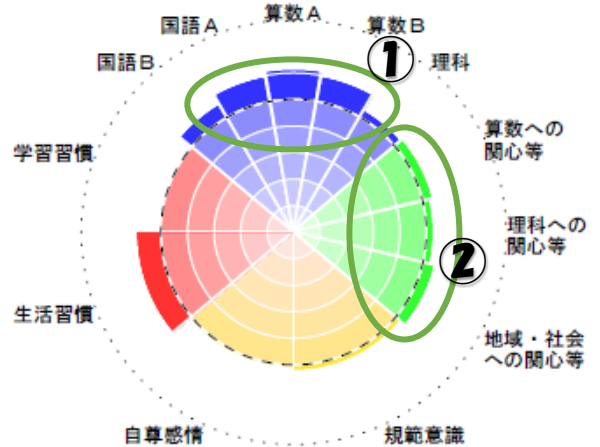
児童質問紙（全国基準）

児童質問紙（全国基準）



児童質問紙（神奈川県基準）

児童質問紙（神奈川県基準）



学力調査の結果を見ると、ほとんどの項目（国語A・B、算数A・B）で全国・神奈川の平均を上回っていることがわかります。この傾向は、ここ数年続いており、本校児童の学力の高さを示しています。今年から実施された理科では、全国の平均を上回る結果となりましたが、国語・算数に比べて数値が低い傾向にあります。（①参照）

また、各教科への関心等の項目は平均を上回りながらも、前年度よりも低下していることがわかります。この点が本校の児童の課題であるとも捉えることができます。（②参照）理科・社会などの教科では、事象ごとに関連付けて推論する力が必要とされており、このことは学習意欲とも関連しているところがあります。総括的に見ると、学習意欲を高めることが理科・社会などの学力にも結び付くと考えます。

本校では重点研究として、生活科、総合的な学習の時間に取り組み、自他のよさを認め止め合い、豊かに表現できるよう、児童の主体的な学習を迫っています。課題を見つけ、情報を集め、分類整理し、解決を図り、結果の検証から課題に戻るといったPDCAサイクルを活用した、生きた学習の基礎を身に付けることで、学習意欲の向上や探究の姿勢を育てていきたいと思ひます。

また、本校では規範意識や自尊感情が低いことが懸念されていました。この傾向は中学校ブロックでも見られる傾向です。達成感や成就感を味わえるような活動を学校全体でこれからも取り組んでいきます。

今後も子どもたちの力をさらに高められるよう様々な活動を見直し、取り組んでいきたいと思ひます。